

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4150180042
法人名	医療法人 長晴会
事業所名	グループホーム きりん
訪問調査日	平成20年3月25日
評価確定日	平成20年6月12日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4150180042
法人名	医療法人 長晴会
事業所名	グループホーム きりん
所在地	佐賀県佐賀市金立町大字薬師丸1274-1 (電話) 0952-71-8222

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年6月12日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 12月 20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	19人, 非常勤 2人, 常勤換算 19.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋建 1階建ての1階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日 1,000円				

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	7 名	要介護2	13 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木下医院、悠心堂クリニック、秋山歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りには福祉施設が点在する環境で、平野が広がるのどかなどに立地している。病院や老健が併設されている。ホームは平屋で3ユニットとも日当たりがよい造りである。法人内の連携が出来ていて、研修などの取り組みも計画的になされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>菓の自己管理について職員間で話し合い、本人の持っている力を活かしながらの対応を確認し合った。また自由に過ごす事を利用者の安全第一の視点から考え、職員間での連携した対応に取り組んだ。皆で意見を出し合い改善に向けた取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はユニット会議で話し合い取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームとして必要な内容を検討し、会議に出席する方の知識や人脈などを活かした話し合いの場としている。議題に上ったことはサービスの向上につなげられるよう取り組みに反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの「便り」などを必要に応じ作り、行事のお知らせや報告に加えホーム内の情報を伝えることを行っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着型サービスとして利用者と地域の人々との係わりの一層の充実を図り、事業所と地域が支えあうような双方向の関係づくりが今後益々築かれる事を期待したい。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの設立時から利用者や家族を地域とつなぎ、その人らしく健康で穏やかに不安なく暮らせる支援を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症をより理解し、介護の方法や対応などを日々考えながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは運営者が以前から居住しているところにあり、普通に地域の一員として関わっている。自治会にも加入し、お祭りや地域の行事に参加し交流に努めている。野菜や漬け物などを時々頂くなど近所づき合いが出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	課題や気付きについてミーティングで話し合ったり、不足を補う取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告や家族からの意見などを聞く場になっている。	○	年1回の評価の効果をより高めるためにも評価で明らかになった課題について、改善経過のモニター役となってもらうような評価と推進会議とを結びつける事も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修会などに参加し、質の向上に役立っている。法人全体で連携しながらの関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時担当職員や管理者が中心となって現状説明を行い、小さなことも利用者に関わることは連絡している。家族が遠くに居られる場合には、電話での対応も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に家族の要望などを聞き、十分話し合う時間を持っている。運営者を含めた家族との面談の時間をもち、意見や要望を聞く機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのケアに影響がないよう配慮しながら、職員にあった配置も行っている。法人内の異動はあるが、一度に複数の異動がないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が月2回定期的に計画されている。管理者も職員の育成に力を入れ、外部研修にも参加しやすい勤務調整をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し、意見交換などの機会づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学したり遊びに来て貰うことから始め、徐々に馴染んで貰っている。訪問して貰うことで、家族と職員の関係作りもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の行動などを見ながら、その行動の理由を知ることができている。話を聞いたり、一緒に喜んだりする事で個々を理解し、関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で情報を得たり、行動パターンを把握することで利用者の意向などを汲み取っている。特に担当職員が相手を知り、思いなどを引き出す努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	リハビリ担当者やケアマネージャーやユニット長の協力を得ながら、担当者がケアプランを立てている。各ユニットの職員から情報を収集し、意見を反映させている。また管理者にもチェックをして貰って、職員全員で共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度見直しをし、評価をしている。その時の状態に合わせて変更・追加をしている。医師にも相談を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや音楽会などの送迎の支援を行っている。ショートステイの受け入れも可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診が出来る。基本的には家族対応にしているが、状況に応じ、付き添う支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や家族と相談し、方針を決めている。看取りまでホームで受け入れられるが、基本は医師や家族と相談しながら出来るだけの治療は行う方針である。「看取りに関する指針」の文書を交わす準備がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入るときは、必ず声かけをしている。個人記録に他の実名の入らないよう、記録にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	近隣への散歩を楽しんだり、近所に好きなパンを買いに出かけたり利用者それぞれに応じた支援を行っている。お酒やタバコも利用者の希望で、他の利用者に配慮しながら楽しむことが出来る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間がユニットで違い、ユニット内でも一緒に食べ始める方や先に食べ始める方もある。配膳や盛りつけを一緒に行ったり、片付けも出来る範囲で参加して貰っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の時間帯を事前に聞いて、配慮している。お湯の温度もそれぞれの好みを把握しており、毎日入る事も出来る。季節ごとに菖蒲湯や柚子湯なども楽しんで貰っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や能力を活かした役割を支援している。習字をしたり碁を楽しんだりしている。地域行事の音楽会に参加したり、併設の老健でのイベントなどにも参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に2回ほどドライブに出かけ、季節の花を見たりしている。日常、散歩や手紙などの投函にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間の声かけなどの連携で、朝8時半頃から夕方6時頃までは施錠することなく生活をしている。自由に玄関より出入りし閉塞感を感じないように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に一度防災訓練を行い、色々な状況を設定し避難方法を身につけている。消防署などにも協力をして貰い、法人全体で定期的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量のチェックが徹底されている。管理栄養士の指導を受け、勉強会も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとしたスペースの中で、利用者が思い思いに過ごされている。廊下の畳に腰掛け、利用者同士が会話をしたり、リビングで手芸を楽しんだりしている。廊下の天井に開閉式の窓があり、空気の入換えが定期的に行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれ入居者の好みで、鉢植えの花が窓辺にたくさん置かれたり、テレビや冷蔵庫が持ち込まれ生活感のある居室となっている。		